

子宮頸がんワクチン

中学生が重い副反応

2013
3-8
朝

杉並区、補償へ

子宮頸がんワクチン「サーバリックス」を接種した東京都杉並区の女子中学生(14)が、歩行障害などの重い症状が出て、1年3カ月

接種した延べ663万5千人のうち956人に副反応が起きているという。失神が多いが「四肢の運動能力

低下」「歩行不能」などで未回復の例もあり、副反応の発生率はインフルエンザワクチンの10倍程度という。杉並区は10年7月、子宮頸がんワクチンの接種を全額無料化。現在は全国1700以上の自治体で、国の補助を受けた接種事業が行われている。国は定期接種を進める閣議決定をしている。(斎藤智子)

にわたり通学できない状況だったことが、7日の区議会でも明らかになった。無料接種を行った区は「接種の副反応」と認め、補償する方針だ。補償額は未定。

サーバリックスは3回の接種が必要。母親によると、女子中学生は12歳だった2011年10月に区内の医療機関で2回目の接種をした。その直後、接種した左腕がしびれ、腫れて痛み症状が出た。症状は脚や背中には広がり入院。今年1月には通学できる状態になったが、割り算ができないなど症状が残っているという。厚生労働省によると、昨年8月末の時点で、全国で

子宮頸がんワクチン 重い副反応 母、追跡調査求める

自治体が費用を負担して女子中高生に接種をしている子宮頸がん予防ワクチン「サーバリックス」で、杉並区の女子中学生(14)に接種直後、重い副反応が起きていたことが分かった。母親は「同じような症状で悩んでいる人がほかにいるのでは」と接種をうけた人

たちの追跡調査を求めている。

7日の区議会で、曾根文子区議(生活者ネット・みどりの未来)が区側に対応などを質問した。区は近く保健所長らが両親に会い、補償について説明する方針。母親によると、接種直後

から腕がしびれて痛み、脚や背中に広がった。弱まった後も、睡眠中に激しく暴れるなどさまざまな症状が出たという。数を数えられず、名前も言えない時期もあったという。

母親は当初からブログで症状や日々の経過を逐一記録し公表してきた。「うちの娘も」と相談してきた人も数人いる。

厚生労働省に全国の医療機関から寄せられた、09年12月の販売開始から昨年8月

末までのサーバリックスの副反応は956件。大半は「失神」だが、重篤なケース85件には「未回復」や「後遺症」が目立つ。

「一定の率で副反応が起きるとしても、956件はあまりに多い。多くは中学や高校の女の子だ。国や区は接種後、どういう症状が起きたのか全員を調査すべきだ」と母親は話す。2013 3/8 朝日 (斎藤智子)